

〈学校教育目標〉
よく学び、たくましく生きる心豊かな児童の育成
「元気な子 考える子 やさしい子」

総社市立維新小学校
令和2年6月3日
第18号

新聞には毎日、新型コロナウイルス感染状況が掲載されています。県別感染者数の記事に目をやっても、新たな感染者数がぐっと減少しているのを見て取れます。しかし、感染収束に向かっている中、北九州市の小学校でクラスターが発生した記事には驚きました。まだまだ油断できないなという思いがしました。初夏の蒸し暑い中、一生懸命頑張っている子どもたちのためにできるだけ安心して学習させてやりたい、改めてそう感じました。引き続き、感染予防の取組を頑張っていきます。

6月の品格目標は「思いやり」

「人」という漢字は本来は象形文字です。2画が支えあっている形で、一つの画を取ると、もう一つの画が倒れてしまいます。そのことから転じて人は助け合い、支え合って生きていくものという人もいます。助け合い、支えあうためには、相手を思う「思いやり」が必要です。6月1日の児童朝礼はこんな話からスタートしました。そして、「思いやり」に関連した説話として、以下のお話を聞かせてやりました。ある会社勤めの中年のおじさんが、バスの中で見た実話に基づいたお話です。



【平日の朝、バスに乗って仕事に向かっていた時のことです。その日は蒸し暑く、雨が降りそうな天気だったため、バスの中は、学校や会社へ向かう傘を持ったたくさんの人たちで満員でした。道路も混雑し、定時より遅れてバスも進んでいました。このままだと会社に間に合うだろうか？と私には焦る気持ちがありました。周りを見ても、時刻が気になるのか、時計を何度も見ている人もいました。私が下車するバス停の一つ手前のバス停にバスが止まった時、何人かがバスを降りていきました。運転手さんが、ドアを閉めようとしたとき、急にドアの近くに立っていた一人の男子学生が運転手さんに話し掛けたのです。私は、何を話しているのかわかりませんでした。その学生は、その後すぐバスを降りていきました。バスは、止まったままで、ドアも開いたままです。私は、会社に遅れないかと焦りながら、バスの中からその男子学生の様子を見ていました。その男子学生が、先ほどバスを降りたお客さんの一人に傘を渡しているのが見えました。傘を置き渡されたお客さんは、男子学生に深々と頭を下げ、お礼を言っているようでした。私以外にも、バスに乗っていた人は、その男子学生の様子を見ていたと思います。すぐにその男子学生はバスに戻ってきて元の場所に立ち、バスは発車しました。私は、親子ほど年の差があるその男子学生が、バスに置き忘れた傘をわざわざバスを止めてまで、届けてあげた行動にとっても感心しました。朝から元気をもらった一日でした。そして、私はその男子学生のように、思いやりのある人になりたいと思いました。その男子学生に心から感謝したいです。】

置き忘れた傘を簡単に渡せる状況ならば、「私」の感心度は、さほど高くはなかったでしょう。「もし雨が降ったら、困るだろう」と相手を思いやる強い気持ちがあったので、相手が降車していて、バスが発車仕掛けていているという不利な状況下でも、行動へとつながったのでしょう。思いやりを行動に移すには勇気も必要ですね。

一時、看板を撤去！

学校だより第15号でお知らせしました、新しい通学路の「通学路につき最徐行！！」の看板ですが、一時撤去させて頂きました。市の教育総務課から頂いた2枚の看板ですが、県道脇の電柱に設置した結果、中国電力からの許可が下りませんでした。従いまして、新しい設置場所が決まるまで、維新小へ持ち帰っています。(校長室保管) ご了承願えたらと思います。

新聞には毎日、新型コロナウイルス感染状況が掲載されています。県別の感染者数の統計の記事に目をやっても、新たな感染者数がぐっと減少しているのを見て取れます。しかし、感染収束に向かっている状況下、北九州市の小学校でクラスターが発生した記事には注目したと同時に驚きも感じました。まだまだ油断できないなという思いがしました。蒸し暑い状況下で、一生懸命頑張っている子どもたちのために、できるだけ安心して学習させてやりたい、改めてそう思いました。引き続き、感染予防の取組を頑張っていきます。